

WEST 政策発表会 (大阪府政策提言ツアー) 学生レポート

訪問日時:2016年2月17日 午後2時半から5時45分

参加者:WEST 大会優秀賞受賞チームほか 17名(2・3・4年)+引率教員3名

WESTで優秀賞に選ばれたチームが、実際の政策を策定する担当者の前で政策を提案する場として、大阪府の協力の下で、大阪府への政策提言ツアーを実施した。



大阪府への政策提言ツアーは、政策企画部企画室計画課の協力を得て実施するもので、昨年に引き続き2度目となる。本年度は、優秀賞を得たチームを含む5チームが参加し、政策企画部や副知事に加え、政策提言分野を所管する、大阪府の担当部局の政策立案担当者の前で、政策提言を行った。時間をかけて、課題、解決のための政策について、説得性を高めてきただけあって、政策立案担当者とも議論が出来るレベルになっていたと思われる。ただ、実施にあたり、見えていない利害関係者への配慮など、政策実施に関わる課題において新たな視点も指摘していただき、学生にとって、今後社会において社会問題を議論する準備としての良い経験になったと思われる。実施後のアンケートでは、参加学生ほぼ全員が大満足との回答をした。以下に、学生の感想をまとめる。

学生番号	満足度	今回の大阪府への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと<満足度評価[5…大満足、4…「満足」、3…「普通」、2「やや不満足」、1「不満足」]>、学んだことを記入してください。<満足度評価の理由、発表・議論で得られたもの、本ツアーの意義など>。
1	5	昨年よりも「議論」が盛り上がっていた印象がありました。論文発表と講評だけでなく、府の方からもより具体的な案を求められる場面も何度かあり、積極的に学生の意見を取り入れようとしてくださっているように感じました。また、データをを用いた分析結果も重要ですが、その結果をどう現場レベルの実効性のある施策に落とし込んでいくのか、というところのむずかしさを提言ツアーの度に感じます。この提言ツアーは、学問的視点と実務的視点両面の重要性を感じられるとても貴重な機会であると感じますし、次年度以降の論文執筆にも大きな影響を与えるツアーだと感じます。
2	5	政策を学ぶ私たちにとって、政策実務者に研究成果に対して講評を頂くことは、研究のやりがいを感じる瞬間であり、また今後の研究への有益な示唆を得られる貴重な機会でもあります。赤井ゼミでは中央省庁への政策提言ツアーも実施していますが、政策の大枠を決めるだけでなく、それを実行する主体となる場合が多い都道府県の担当者からお話を伺うことで、政治的な観点だけでなく、行政的に実現しやすい政策を考える契機になり、非常に意義のある企画だと思います。
3	4	この度は大変貴重な見学会に参加させていただき、ありがとうございました。発表・質疑応答では、実際に政策決定を行う方々ならではのご意見をいただき、現状分析や政策提言について捉えきれていなかった問題点や新たな視点を得ることが出来ました。また他班の発表でも、これまでの発表会等で指摘されていなかった点について意見交換が行われており、本ツアーの意義は政策の策定に取り組む方々との議論を通じて、ゼミ等では議論が十分に行われていない点について新たな気づきを得ることにあると感じました。
4	5	大変貴重な体験をさせていただきまことに有難うございました。我々のグループでは最後のプレゼンテーションにてメンタルヘルスについて発表をさせていただきました。これまで行ってきた研究は統計分析と政策とのつながり、必然性に焦点があてられ、政策の実際の運用にまで熟考できず、どこか消化不良な面がありました。しかし、本会におきましては府庁の皆様方の意見を聞きまして、私たちがの自覚していない欠点が浮き彫りにされ、反省材料が多く見つかったことは刺激にもなり、また有意義なものであったと考えます。
5	4	実務にあたる方の意見を聞いたことは大変参考になった。ただ、社会保障や介護を専門に扱っている方にコメントをつけて頂いたため、一步踏み込んだ様なコメントを頂けなかったことが残念。コメントに関しては、提言を始め発表の良し悪しにとどまらず、扱った社会問題について今後どうあるべきかをより深く議論できるように今後WESTと大阪府の間で協力関係を深めていくことが出来れば、さらによいツアーになると感じた。
6	5	実務に携わっていらっしゃる方と議論することで、文献調査やヒアリング調査だけではわからなかった部分を知ることができました。特に政策提言の実効性について意見を頂戴できたことが非常に良かったと感じています。例えば、表示制度であれば、消費者が光熱費削減の効果を知ってもなお環境性能の高い不動産を選ばない事、容積率緩和についてはそもそもハードルが高く実効性が低い事などであり、この点は政策提言の質を高めるうえで重要なポイントだと感じています。また、今回の論文では、課題をクリアにするために消費者と建築主の二つのアクターに限定をしていましたが、「その他関連するアクターの分析もするべきである」というご指摘を踏まえ、来年度はその点も意識していこうと思いました。

8	5	学術的な視点と、実務的な視点は異なっており、頂いたコメントもそれぞれ観点が異なっていたように改めて感じた。やはり分析結果に合うような形で提言を進めるには制約が多く、分析結果で言えないために省いた部分などに関して行政の方々に納得していただけるような説明ができなかった点を反省したい。自分たちが半年間かけて作成した論文を実際に発表という形で実務に携わる方々に披露し、フィードバックしていただける機会はそうないので、非常に意義が大きく、今後も継続していきたい。
9	4	担当の部局(農政局)の方も出席していただき、より現場に近い立場からのご意見を頂いたのはとても参考になった。また、企画室の方からは大都市の農業を守ることは是非など、ゼロベースで政策の意義を意見交換できたのは有意義であった。若干の準備不足もあり、発表の内容や質問対応は十分とは言えず申し訳なかったが、学びは多かったと思う。
10	5	大阪府への政策提言で感じたこととしては、私たちの論文のテーマはまだまだ詳細に分析する余地があるということです。分析に対する質問の際に中小企業や大企業の差異、業種別の差異は統計的に認められなかったと答えましたが、そこに疑問を持たれる方が多かったというのがあり、やはり企業規模や業種別にももう少し詳細に分けて考えるべきだと感じました。WESTの2日目の講評の際にも業種別等で交差項を設ける等してはといったアドバイスをもらったことから、改善の余地はあったのではないかと思います。また、メンタルヘルスを担当していらっしゃる方からの補足意見なども伺うことができ、大変参考になりました。
11	4	自分たちの班の発表に関しては、内容が府政に直接的に関わる内容ではなく、かつ、こちらの能力不足もあり、議論が上手く進まなかった場面がありましたので、さらに精進しなければならないと感じました。また、他の班に対する現場の担当者の方の鋭いご指摘や深い議論には、そのような視点もあつたのかと驚くことが多かったです。学びの多い一日となりました。ありがとうございました。
12	5	本提言ツアーでは、実務家の方の視点を知れる点に意義があると感じます。当日は、地域ごとの特性や財源の確保の方法など、政策を打つのに必要不可欠な要素を指摘していただきました。これらの点を来年度からの政策に取り込めたいと思います。また、他班への指摘に関しても、ゼミ等でなされていたものとは異なり実務家の方からの視点を知ることが出来ました。

13	4	実際に業務に携わっている行政の方々の意見を伺うことのできた貴重な経験だった。個々の関係者と接し、折り合いをつけている当事者の意見なので、私たちが今までやってきた調査とは全く違う意見や異なる見方が多く見受けられたので、考えさせられる場面も多かった。特に、自分たちの発表の時に答えられないことがあったので非常に悔しい思いをした。今回のように、論文執筆にもかなり協力していただき、このような機会も提供していただけるということは大変光栄なことなので、これからも続けていきたいと思った。
14	4	WEST、ISFJと最優秀賞をとったこともあり、2年生という立場ながらも、論文の内容には比較的穴がないものと感じていました。しかし、大阪府の担当職員の方から、政策提言の中の総合設計制度における容積率緩和についての厳しい指摘を受けて、自分が出来たと思った論文でもまだまだ直すべきところがあり、ヒアリング調査などで実務者の意見を取り入れた論文を書けるようになりたいと思いました。
15	5	大阪府という比較的身近な政治の場において発表させていただき、また少しでも興味を持っていただいたことは非常にそれだけでも価値があることかなと感じます。私達が挙げた問題点はやはり現場の方々からしても周知の問題であり、それ程簡単には是正できないのだなと感じました。また介護政策などは「今から新しい総合事業が始まるのに既存の制度をなんで使っちゃったんかなー新しいのを作ってみても」といわれた際は確かに、と思いました。現場の方々はややはり視点が違うというか鋭いなと思い知らされました。
16	5	実務の方から論文の発表についてお褒めの言葉をいただけたことはうれしかった。来年も、先輩方のような論文を書きたいと感じた。現場で政策を行っている職員の方との話の中で、常に政策を行っている「人」がそこにいるのだという認識を持つておくことは必要だと感じた。副知事をはじめ、多くの府の職員の方に対して、発表し意見交換をするという貴重な機会を与えていただき、来年も実現できるようますます頑張ろうという気持ちになった。
17	4	ツアーにおける発表や議論には満足なのですが、私個人の諸事情により懇親会に参加できなかったことが残念で、「4」と評価させていただきました。発表・議論の中では、大会での質問とは違って、実際に行政の立場から、いい面も悪い面も含めてどう実現していくかを考えて質問していただけたように思います。そのため、十分に答えられたものばかりではなかったですが、「もっとこういう視点も持って研究すればよかったのか」と、来年度の参考になることがたくさん得られる時間でした。

学生番号	懇親会で学んだこと
1	大阪府の方の多くが首都圏への人口・人材流出を危惧されていたのが印象的でした。周りでも就職を機に首都圏へ移る人は非常に多く、関西や地方でも学ぶことができる・働くことができるようなシステムがない限り、進学・就職に伴う首都圏への人口移動の傾向は止まることはないだろうと感じます。
2	不参加
3	不参加
4	自治体での仕事が一口に言っても多岐に渡ることに、そして政策を提言する場合の統計的な裏付けが求められていることなど学ばせていただきました。また、内部での人間関係や後輩の先輩へのマナーの基礎など、思わぬことも教えていただき、大変有意義なものとなりました。
5	不参加
6	出向の方もいらっしまったため、国家公務員と地方公務員の業務内容やその違い、公務員として働く意義、また、社会人としての生活などざっくばらんにお話ししてくださり、自分のキャリアについて考えるうえで非常に良い経験となりました。
7	懇親会では、ざっくばらんな話を聞くことができ、非常に貴重な話も聞くことができました。国が求められる役割と地方公共団体が求められる役割の違いについて、財務省から出向している方もいらっしまったので経験に基づいたお話を聞くことができ、地方公共団体の重要性について学ぶことができました。
8	不参加
9	企画室の方とキャリアについての話もでき、就職活動の参考にもなった。また、懇親会の席で、府の内部の立場からの維新改革での政策の是非について議論をした。当事者である職員の方の意見をお聞きし、政策を考える上での視野が広がった。
10	懇親会で学んだこととしては、公務員を志望する身としてのアドバイス等をいただきました。特に、私が志望している県がどのような政策を行っているのか等を教えていただいたり、普段の業務の話などを聞かせていただいたり、とてもためになりました。

11	不参加
12	懇親会では、大阪府庁の方から仕事に関する詳細を聞くことが出来、楽しい時間を過ごすことが出来ました。知事が変わった時の企画室の方の仕事の大変さや、政策に対する想いなど、普段は聞けないような話をお酒をかわしながら聞かせていただきました。また、府庁の方は面白い方が多く、ご家族のお話や学生時代のお話を楽しく伺っていました。
13	昼間の緊張感ある発表とは違ってかわって、非常にフランクに大阪府の皆さんと会話することができ、楽しく交流できた。実際に普段どのような業務をなさっているのかや、私たちにこれからどう働いてほしいかなど、様々な意見をいただけてよかった。
14	大阪府の職員の方に論文に使えるネタがないかなどを聞いたところ多く上がった意見が大体の問題の諸悪の根源は少子化ということでした。違う部署で働く人間でも、府全体として感じている問題点は同じなのだなと感じました。
15	懇親会では、知事が変わったときにどのくらい仕事が変わるのかや知らなかった知事の側面など、詳細がたくさん聞いて面白かったですし、失礼かもしれませんが大阪府の方々は想像以上に政策などについて考えていらっしゃること、自分たちが把握できていないだけで、事業がひび様々な議論され改善されていることを感じました。
16	ご飯もおいしかったですし、府の方々も気さくな方ばかりで話しやすかったです。大阪での起業の状況や、少子化についての職員の方の体験を交えた話を聞くことができ、大変興味深かったです。
17	不参加

学生番号	今後、価値ある活動として、どのような発表・議論の場を希望しますか？
1	提言先は主に政策主体の自治体ですが、関連するアクターは様々です。(介護予防であれば、地域包括支援センターや特養など) そういった関連団体も交えて提言・議論ができればより議論が深まり、実効性のある政策の在り方を考えられると考えます。
2	今回は受賞の関係で大阪大学のゼミのみでしたが、今後も継続して開催し、ほかの大学からも発表ができる機会があれば良いと思います。またWEST開催時から、「大阪府提言発表権」を上位の論文チームに贈られることをアピールすれば、より研究に打ち込むモチベーションになると思います。
3	より現場に近い場(介護であれば地域包括支援センター等)で発表・議論を行い、実際に最も深刻な問題は何か、どのような政策が取られれば問題が解決するか、等について意見の交換をしたいです。
4	ぜひ本会を来年度からの後輩たちにも経験させてあげられたらと強く願います。重ねて御礼申し上げます。有難うございました。
5	提言の良し悪しに終始せず、提言を実現するには、もしくは違うやり方で形にするにはどうすべきか、という点について行政の意見を詳しく聞ければ学生にとって新たな学びになると思う。
6	ヒアリング調査を行った自治体へ論文の送付は行いましたが、提言について説明しフィードバックをもらえる機会があるとよい経験になると思います。
7	今後は、大阪府だけでなく、他の自治体に対しても、提言ツアーに行くことができれば、様々な意見を聞くことができ、より考えが深まるのではないかと思います。
8	今後は、WESTとしての行事として毎年継続することを目指す。現在、企画に関しては確定はしていないものの、複数大学が参加できる形にしていきたいと考えており、具体的な方向性に関しては大阪府の方々と話し合っていきたい。
9	市町村への提言も今年は多かったように思う。また、住民により近い市町村という単位で、政策を検討してみるのもよいと思う。そこで、大阪市や豊中市など、身近な自治体の方との意見交換も実施してみると面白いのではないかと思います。
10	今回のような提言の担当者の方に加えて、より現場の方に意見を伺うことができれば幸いです。

11	私たちの班は優秀賞受賞班でないにも関わらず呼んでいただいた立場ではありましたが、今回のような場に、他大学の優秀賞受賞班や上位10本に入った班なども交えると、より一層多様な意見交換の場になるのではないかと感じました。
12	今後は、政策発表だけでなく、大阪府が抱える課題に関して考える機会があると興味深いと思います。また、参加者が大阪大学だけでなく幅広い大学を増やすことで議論の活性化につながると考えます。
13	有識者の方々と話すことによってより多くの意見や我々の気づけなかったことを発見できるので、そのような機会をいただけたら嬉しいです。
14	今は大阪府と、論文に関わる省庁で発表・議論の場があるが、論文を書く中でのヒアリング先にも発表することができたらおもしろいかもしれない。
15	今後もこのように、大阪府の担当の方々の前で発表させていただく場があればと思います。また懇親会のような場では、自分の担当分野だけでなく、様々なこと、今現場で議論になっている話題に関して一緒に考えることができるので今後もほしい機会だと思います。
16	府だけでなく市への提言など。参加する大学を増やし、ある程度論文テーマに沿った形での活発な意見交換を行ってもよいのではないかと。
17	論文を書く過程でお話を伺った人などに直接発表できる機会があれば良いのではないかと思います。また、今年の農地班であれば、農業従事者のような、「現場」の方に発表したうえで、想いを聞くことができる機会があれば、行政側だけでは得られないような視点も得られるのではないかと考えます。

式次第(参考)

WEST 政策発表会（大学生との意見交換会） 次第

日 時：平成 28 年 2 月 17 日（水）

場 所：府庁本館特別会議室（大）

- 開会あいさつ (14:30)

- 第 1 部 入選作品に関する意見交換会 (14:35～16:05)
 - ・大阪大学 赤井研究室 山本班 耕作放棄地発生抑制への一考察

 - ・大阪大学 後藤研究室 梶芳班 奨学金返還延滞問題解決を目指して
～個票データを用いた奨学金延滞に関する実証分析

 - ・大阪大学 赤井研究室 村上班 介護予防の有効な促進政策

- ※ プレゼンテーション 20 分、意見交換 10 分

- 休 憩 (16:05～16:15)

- 第 2 部 政策発表会 (16:15～17:45)
 - 【最優秀賞・政策提言賞受賞】
大阪大学 赤井研究室 榊原班 環境不動産普及に向けて
～自治体版 CASBEE を用いた実証分析

 - 【現状分析賞受賞】
大阪大学 後藤研究室 鳩班 労働者のメンタルヘルス向上を目指して
～職場環境要因に着目したパネルデータ分析

- ※ プレゼンテーション 20 分、意見交換 25 分

- 閉 会 (17:45)